第 2 章 震災後 5 年を迎えた仮設住宅自治会の現状と課題
―富岡町アンケート調査を中心に―[1)]

2.1 各仮設住宅自治会の概要

本章では 5 年目を迎えた富岡町仮設住宅の入居者がどのような状況かを、2012 年から継続して実施している自治会役員へのヒアリング調査と 2015 年秋に実施した仮設住宅入居者へのアンケート調査の両面から、その規模別で把握するとともにいわきや郡山市内での公営住宅の入居が進み、また翌年には三春地区に建設される公営住宅の入居と仮設住宅主役などの環境が変わりつつあるなかで、仮設住宅自治会がどのような役割を果たすべきかを検討したい。

富岡町民が入居する仮設住宅は町役場が置かれている郡山市に 3、いわき市に 3、三春町に 6、大玉村に 1 の計 13 が設置されている。これら仮設住宅の入居開始月と自治会設立月は以下の通りである（表 1）。

表 1　各仮設住宅の入居開始・自治会設立時期[2)]

地区	仮設名	入居開始月	自治会設立
郡山	南一丁目	2011年6月15日	2011年6月
	緑ヶ丘東7丁目	2011年6月15日	2011年10月
	富田町若宮前	2011年6月15日	2011年8月
三春	熊耳	2011年6月18日	2011年8月
	平沢	2011年6月18日	2011年8月
	三春の里	2011年6月18日	2011年夏
	もみじ山	2011年6月18日	2011年9月
	沢石	2011年6月18日	2011年9月
	柴原萩久保	2011年7月31日	2011年9月
大玉	安達太良	2011年6月22日	2011年9月
いわき	好間	2011年6月20日	2011年末
	泉玉露	2011年9月16日	2011年12月
	下高久	2012年10月22日	2013年3月

2.2 調査の概要

富岡町の仮設住宅入居者を対象に 2015 年 9 月～10 月に実施した（富岡町は南一丁目、富田、熊耳を除く。因みに同時期に富岡町の広域自治会（すみれ会、郡山方部居住者会）にも実施し、100 名回収）。回収結果は 149 名であった。また、仮設住宅への入居戸数については表 2 の通りである。

調査内容は 2012 年夏に実施した調査項目をベースに、1)震災前の行政区や地域とのかか

わり、2)震災後の行政区や地域とのかかわり、3)仮設住宅転居後の生活、4)今後の帰町・集団移転に対する意向、5)基本属性、としている。

回答者属性は性別で男性 51.7%・女性 46.3%・不明 2.0%、年代別では 30 代 1.3%・40 代 8.1%・50 代 16.1%・60 代 24.8%・70 代 26.8%・80 代以上 16.1%・不明 6.7%、同居人数別は 0 人 42.3%・1 人以上 55.0%・不明 2.0%であった。

表 2　仮設住宅入居戸数の変化[3)]

地区	仮設名	全戸数	戸数			
			11年度末	12年度末	13年度末	15年時点
郡山	南一丁目	166	165	161	155	114
	緑ヶ丘東7丁目	169	125	121	110	84
	富田町若宮前	287	282	275	269	198
三春	熊耳	86	75	64	55	47
	平沢	84	71	57	53	41
	三春の里	18	17	13	13	13
	もみじ山	34	29	29	26	23
	沢石	58	31	31	26	9
	柴原萩久保	50	39	34	32	24
大玉	安達太良	630	259	253	224	155
いわき	好間	62	61	62	57	47
	泉玉露	220	220	219	200	164
	下高久	90		89	90	70
計		1,954	1,374	1,408	1,310	989

2.3 仮設住宅自治会の実態と期待

(1)　住民側の実態と期待

以下ではアンケート調査の結果を確認する。その際の分析軸を郡山／三春／大玉／いわきの四地区と定めるものとする。まずは自治会活動・行事への参加状況について確認しよう（表 3）。四地区で多いのは「ごみ処理等の清掃美化」（51.7%）、「自治会の総会や役員会」（51.0%）、「新年会・忘年会等の季節行事」（40.3%）、「ラジオ体操等の体育活動」（35.6%）、「賠償等の説明会・勉強会」（33.6%）などである。地区別で見たときに郡山で多いのは「新年会・忘年会等の季節行事」（75.0%）、「防災訓練」（65.0%）、「食事会・飲み会等の懇親行事」（50.0%）である。三春地区はほぼ全体平均と同じであるが、とりわけ少ないものをみると「ラジオ体操等の体育活動」（10.3%）である。大玉地区では「ひとつもない」（16.2%）が多く、これは横堀平団地への移行があるためと考えられる。最後にいわき地区であるが、多いのは「ラジオ体操等の体育活動」（47.6%）、少ないのが「防災訓練」（6.3%）である。

表 3　自治会活動・行事への参加[4]

	調査数	ごみ処理収集協力、地域の清掃美化	自治会の総会や役員会	新年会・忘年会等の季節行事	ラジオ体操、運動会等の体育活動	賠償等の説明会・勉強会	食事会・飲み会、旅行等の懇親行事	資源・廃品回収	防犯・防火パトロール、交通安全対策	防災訓練	集会所、街灯等の施設・設備管理
合　計	149	51.7	51.0	40.3	35.6	33.6	29.5	18.1	16.8	15.4	11.4
郡山	20	50.0	65.0	▲ 75.0	↑ 55.0	30.0	△ 50.0	25.0	20.0	▲ 65.0	10.0
三春	29	41.4	51.7	34.5	▼ 10.3	31.0	31.0	13.8	10.3	13.8	10.3
大玉	37	62.2	51.4	40.5	∵ 24.3	32.4	24.3	13.5	13.5	↓ 5.4	13.5
いわき	63	50.8	46.0	∵ 31.7	△ 47.6	36.5	25.4	20.6	20.6	▽ 6.3	11.1

	調査数	冠婚葬祭	高齢者・障がい者福祉	乳幼児・学童保育の支援、青少年教育・育成	その他	ひとつもない
合　計	149	6.0	5.4	2.7	3.4	8.1
郡山	20	5.0	10.0	5.0	5.0	−
三春	29	6.9	−	3.4	3.4	3.4
大玉	37	2.7	−	−	2.7	↑ 16.2
いわき	63	7.9	∴ 9.5	3.2	3.2	7.9

次に仮設住宅入居者が抱える生活上の問題点について確認する（表 4）。四地区で共通の問題として、「名前を知らない人が多い」（41.6%）、「住民の高齢化」（34.2%）、「自治会のルールを守らない住民の存在」（28.2%）、「他仮設住宅等との交流が少ない」（27.5%）であった。

表 4　地区別でみた現在の生活上の問題点

	調査数	名前を知らない人が多い	住民の高齢化	自治会のルールを守らない住民の存在	他仮設住宅等との交流が少ない	自治会役員のなり手不足	仮設周辺地区の人との交流がない	一部のものだけが参加	ゴミ処理の問題	連絡員との関係	高齢者や単身者などの孤立化
合　計	149	41.6	34.2	28.2	27.5	20.1	16.1	22.1	14.1	12.1	16.1
郡山	20	∵ 25.0	45.0	↓ 10.0	30.0	10.0	10.0	15.0	−	15.0	10.0
三春	29	31.0	24.1	∵ 17.2	27.6	∵ 10.3	10.3	24.1	−	∵ 3.4	−
大玉	37	∴ 54.1	35.1	∴ 37.8	21.6	16.2	∵ 8.1	21.6	18.9	−	∴ 24.3
いわき	63	44.4	34.9	33.3	30.2	△ 30.2	△ 25.4	23.8	↑ 22.2	△ 22.2	20.6

	調査数	仮設周辺地区のことがわからない、把握できない	自治会等主催行事への住民参加が少ない	商店・スーパー等の買い物施設の不足	住民間のトラブル	建物等の施設の痛み	ひとり暮らしの高齢者への対応	周辺住民によるいやがらせ	移動や交通の問題	とりまとめ役の不在	以前から居住している周辺住民とのトラブル
合　計	149	15.4	18.8	19.5	13.4	20.8	14.1	6.7	16.1	5.4	4.0
郡山	20	15.0	10.0	25.0	10.0	▲ 50.0	10.0	10.0	15.0	−	−
三春	29	6.9	24.1	17.2	6.9	∵ 10.3	10.3	−	20.7	3.4	−
大玉	37	13.5	18.9	18.9	10.8	18.9	18.9	−	21.6	2.7	−
いわき	63	20.6	19.0	19.0	∴ 19.0	17.5	14.3	↑ 12.7	11.1	∴ 9.5	△ 9.5

地区別に見ていくと、郡山地区で四地区平均と比べて多いのが「建物等の施設の痛み」（50.0%）であり、一方で少ないのが「自治会のルールを守らない住民の存在」（10.0%）で

ある。三春地区では際だって問題が顕在化しているものはなく、少ないもので「自治会のルールを守らない住民の存在」（17.2%）や「自治会役員のなり手不足」（10.3%）などであり、この地区についても自治会がある程度機能していることがうかがえる。大玉地区で多いのは「名前を知らない人が多い」（54.1%）、「自治会のルールを守らない住民の存在」（37.8%）や「高齢者や単身者などの孤立化」（24.3%）である。大玉村の仮設はかつて大規模な仮設住宅であったため、その名残が「名前を知らない人」であったり「ルールを守らない住民の存在」という結果になっているのではないか。「孤立化」については同仮設住宅敷地内に建設された横堀平団地に行かない、少数の仮設入居者についてのことを指すのかもしれない。最後にいわき地区である。他の地区と比べて多くの問題が顕在化しており、例えば「自治会役員のなり手不足」（30.2%）、「仮設周辺地区の人との交流がない」（25.4%）、「連絡員との関係」（22.2%）、数は少ないものの「以前から居住している周辺住民とのトラブル」（9.5%）がある。いわき地区の仮設は他地区と比べても借り上げ／住居購入者が多く、また同市内への退去も多く見られることから、このような結果になっているものと考えられる。あとは周辺地区との交流がないというのもこの地区の特徴である。

次に仮設住宅自治会への期待を確認する（表 5）。四地区で共通の期待として、「災害公営住宅の入居に関する相談」（32.9%）、「帰町・集団移転等の転居に関する情報提供」（27.5%）、「国や自治体との賠償等の交渉」（24.8%）、「帰町・集団移転等の転居に関する生活相談」（23.5%）である。

次に地区別で見ていくと、郡山では「国や自治体との賠償等の交渉」（50.0%）や「帰町・集団移転等の転居に際する生活相談」（40.0%）が多い。三春地区は「帰町・集団移転等の転居に関する生活相談」（34.5%）、「説明会開催等の賠償に関する情報提供」（27.6%）や「付近住民との交流・懇親イベントの開催」（24.1%）が平均より多く、特筆すべきは「付近住民との交流」への期待がこの地区で高いことにある。大玉では少ないものとして、「災害公営住宅入居に関する相談」（21.6%）がある。これは横堀平団地への件がほぼ解決していたものと推察できる。最後にいわき地区では「災害公営住宅への入居に関する相談」（42.9%）が 4 割以上となっていて、この時点での入居者が次を公営住宅として考えている人が他の地区よりも多いことを示している。

表 5　仮設住宅自治会への期待

	調査数	災害（復興）公営住宅の入居に関する相談	帰町・集団移転等の転居に関する情報提供	国や自治体との賠償等の交渉	帰町・集団移転等の転居に際する生活相談	現在の区や町内の情報提供	説明会開催等の賠償に関する情報提供	仮設住宅内のトラブルや問題の解決	現在の生活に関する相談	付近住民との交流・懇親イベントの開催	飲み会や旅行等の交流・懇親イベントの開催
合　計	149	32.9	27.5	24.8	23.5	22.8	16.8	14.1	12.8	12.8	8.7
郡山	20	25.0	35.0	▲ 50.0	↑ 40.0	20.0	15.0	10.0	15.0	10.0	10.0
三春	29	31.0	34.5	∵ 13.8	∴ 34.5	24.1	∴ 27.6	↓ 3.4	∵ 3.4	↑ 24.1	10.3
大玉	37	∵ 21.6	21.6	27.0	16.2	18.9	16.2	16.2	16.2	10.8	5.4
いわき	63	↑ 42.9	25.4	20.6	17.5	25.4	12.7	19.0	14.3	9.5	9.5

⑵　自治会側の対応

これらの入居者一般の現状と期待を確認してきたが、自治会としてはどのような対応を取ってきたのだろうか。筆者は 2012 年冬から現在まで各仮設の自治会会長へ継続的に聞き取り調査を行っている。それらの結果から、各仮設住宅自治会における問題意識は以下のように変化していることがわかる。

緑ヶ丘東七丁目：支援と入居率が低下するなかで交流維持を検討している、支援多→支援減少による会長の活動増→交流を保つ方策を検討

三春の里：出身行政区がバラバラ→何とかまとめる→行事参加者が減少→行動パターンが決まってきたので把握は容易

熊耳：2013 年度から独自の事業を推進（支援から自立へ）→仮設内が落ち着いてきた→仮設自治会は存続予定

もみじ山：自主性が強い→トラブルはない→名目上の自治会はあった方がよい

平沢：クレーマーが多い→仮設での生活に慣れ落ち着いてきた／好みの傾向がわかるようになってきた

柴原萩久保：懇親会をはじめたが数回で取りやめ→入居者の一人ひとりが正確にわかるようになってきた

安達太良：人づきあいの問題よりは「独居高齢者」と「転居後」対応を考えている、公営住宅への移住→ひとり暮らし高齢者への対応→復興住宅入居後の対応

泉玉露：大規模仮設を束ねる難しさ、交流が出来たことにより告知方法を変更→全体を一つにまとめるのは困難→周囲のことを理解できると小さい単位での活動が増える

好間：自治会の活動力低下、若い世帯が多い→自治会への関心低下？→中心となる人の転居により自治会力は低下

下高久：会長交代による方針変更を模索、「ここにしばらく住むんだ」と考え出来るだけ自分たちで活動→外部団体との協力で活動

表 6　2012 年度から 15 年度までの仮設住宅自治会の動向

自治会名	時期	①組織	②活動・行事	③問題点等その他
緑が丘東七丁目	2012年度まで	・会長1名、副会長1名（若い人）、会計1名、監査2名、班長9名	・防災訓練 ・週1回の筋肉体操やサロン ・近隣住民及びその他の仮設との交流が多い ・支援団体絡み多	・高齢者割合高 ・住民達が自治会長の知人 ・畑を借りている
	2013～2014年度	・監査の2名は班長と兼務している。仮設の流れ1列＝1班としているのだが、人が少ないところでは2棟～4棟で1班としたから	・役員会は2014年度に入って2回行った。大きな行事や問題提起があったときに開催 ・「絆」は月3名やってきて、草刈りなどをやっていたが、自治会として第一日曜に一斉に草むしりをやる ・防災訓練は10～11月に1～2時間程度実施 ・2014年8月土曜に生保会社によるイベントをやる。去年は仮設から70～80名ほどが参加 ・地元の自治会とのやりとりであるが、尚志幼稚園を通して夏祭りやイベントに参加している。会長との交流はある	・町は社協と絆の連携により孤独死対策をするようになった **・支援は少なくなっているが自治会長としての仕事は増えていると思う。情報発信も検討している**
	2015年度	・今年度には人が少なくなったので9班体制から6班になった。会長1名、副会長1名、会計1名、監査2名、班長6名であり、班長の2名は監査と兼務	・第一日曜の7時～8時に仮設の周りの草刈りはこれまで「絆」がやっていたものであるが、2015年度からやらなくなったため自分たちでやり始めた	・今年の10月には入居者が5割を切る。ほとんどが4号棟の復興住宅へ転居する ・空き部屋は防犯関係が難しい。1棟6戸が原則の中で、そのうちの4つが空いていると不安がある **・入居率が30%切ったら仮設の集約が必要かと思う。バラバラにならないように交流を保つための手だてを役員内でも話し合っている** **・支援がだんだん減っている。おだがいさまセンターからも町役場からも減っている**

表 6　2012 年度から 15 年度までの仮設住宅自治会の動向（続き）

自治会名	時期	①組織	②活動・行事	③問題点等その他
富田町 若宮前	2012 年度 まで	・会長、副会長、会計、班長（各班1～2名）、幹事2名 ・役員は60代3名、70代7名、80代3名 ・任期は1年	・家族台帳の整理 ・住民への表札設置の依頼 ・年3回クリーン作戦 ・毎週金曜のゴミ分別収集 ・ゴルフ大会、夏祭り、ボーリング大会	・近隣住民との関わりを積極的に拡大を試みている ・借り上げ居住者も頻繁に出入り
	2013 ～ 2014 年度	・幹事は高齢者だったので2名勇退し、新しい人に代わった。全体的に若くなった	・2013年度は文化的事業に力を入れた。DVDソフトをおだたいさまセンターで鑑賞したりした。また『みんなの研修会』を開催。マグロ解体ショーや救急講習会などを実施 ・8月には祭を開き、外部からの人が来たりして300名ほどが参加 ・富岡町と共催で葉山神社の夏祭り、スポーツ大会、町で90年以上続く『えびす講市』も開いた ・クリーン作戦として、生活道路や付近の川（逢瀬川）の土手周辺まで出てゴミ拾いや草刈りをしている。スポーツ交流を郡山老人会としている	・規模が大きい仮設であるが、大分落ち着いてきたものの細かいトラブルはある。自分でも顔と名前が一致しない人も結構いる。何らかのイベントがないと覚えない ・50台ほどの不法駐車とかが当初はあったが、今は98%位改善されたと思う
	2015 年度	・新役員の中でも転出予定の人が5名くらいいるため、「転出するまで…」という条件で受けてもらった	・ゴミステーションのやり方を変えた。人が減ってきたことと、金曜日の回収が12時と遅かったこともあり、担当者の拘束時間が長くなっていたから	・現在は200世帯280名、去年からかなり減った。いわきや郡山に移っていった ・公営住宅への転居である。入った人たちから「閉鎖的な社会環境である」と聞いて、「（公営住宅に）移りたくない」という人が増えている
三春の里	2012 年度 まで	・会長1名、副会長1名、会計1名、監査を1名	・1戸あたり250～300円の会費徴収 ・「三春の里」敷地内で春は桜、夏は花火、秋は収穫祭といったイベントがあるので、自分たちでやることは少ない	・会長自らが仮設内の草刈りをする **・小さいが故にまとまりやすいのだが、当初は大変だった。というのも、出身行政区が全てバラバラだったから**
	2013 ～ 2014 年度	・現在は会長1名、連絡員2名。連絡員は会長留守時に集会所の鍵を管理	・2013年から町から補助金が出るようになり、会費徴収はやめた ・毎週火・木13時半～16時までの勉強会を外部団体が支援 ・三春町にある富岡小学校児童との交流もあり、6回来てもらった。お年寄りと小学生との交流が目的	・「三春の時代まつり（行列）」には自治会宛に参加要請がある。2011年には三春、葛尾、富岡から300名ほど参加していたが、**2012、2013年になるにつれてどんどん参加者が減っている**
	2015 年度	・会長と連絡員2名が留任	・出る人／来る人の歓送迎会を7月に三春の里でやる予定である ・夏に仮設住宅の点検をする予定で、本来なら年1回なのだが、2回はやってもらっている。また今度来る人が車いすを使っているので、スロープを設置した	・ここの人は色々なイベントに参加できるので退屈はしない **・この1年、行動は決まってきたのではないか**。土日は身内が遊びに来たり、年配者はグランドゴルフに行き、散歩をしたりしていて、**大体の行動パターンがわかっている**
熊耳	2012 年度 まで	・会長1名、副会長1名（70歳）、班長4名（60前と70代） ・任期は1年	・お茶会や社会福祉協議会のさくらスポーツ会に参加 ・集会所を17時まで、お茶会や卓球などに使っている ・小中学生への「学習支援」	**・H25年から富岡町やおだがいさまセンターの支援を受けずに独自の事業計画で進める予定** ・熊耳行政区長、副区長との面談予定あり
	2013 ～ 2014 年度	・役員は減らした。班長が4名だったのだが、入居数が減り2名に減らして、会長、副会長と合わせて計4名	・女性で活動に参加する／しない人は固定化してしまった ・8月の盆踊りは自治会が主催。関与者は熊耳役員全員と小浜区青年会、太鼓、サポセンとおだがいさまセンター、他支援団体等であり、役割分担の上、ブース毎に独自に話し合いを進めている	**・大分、落ち着いてきたようだ**。仮設は使用期限の延長に延長を重ねるしかないのではないか **・今の時点で仮設に入っている人の7～8割は自立できないのではないだろうか**
	2015 年度	・班長、会計を廃止 ・A・B棟2名の班長のうち、残りの1名を含めて、会長1名、副会長1名の役員3名体制	・2015年から子どもたち（三春の小中学校に通うなかでビーンズふくしまの塾に通っている15～6名である）の田んぼ体験をしている。自治会長、熊耳区長が準備・企画をして、実行主体はノウハウを持っているビーンズふくしまである	・少なくとも公営住宅入居までは自治会を存続させるつもり ・盆踊りについては各自治会長に案内を出した。2013年は集まりが悪かったので、**2014年は町にお願いして巡回バスを用意したにも関わらず参加率が悪かった**
もみじ山	2012 年度 まで	・会長1名、副会長1名、会計1名、住民交流促進役3名 ・三役は30代、住民交流促進役は50代、60代、70代	・毎週水曜の10時～12時に行われるお茶会 ・お茶会＋α のイベントで芋煮会、クリスマス会、もちつき会、忘年会、新年会、お花見会	・他の仮設との関わりは殆どない **・自主性が強い仮設**
	2013 ～ 2014 年度	・会長1名、副会長1名、会計1名、相談役1名	・総会はたまにやる。役員4～5名ほどしか集まらない。そこでは春から秋に何をやるのかといったことを議論。役員で決め回覧で回して、住民に実施是非を問う ・毎週水曜に談話室でお茶会（10時～12時） ・花見を4月開催、ほぼ全員が参加した	**・仮設の中ではトラブルはない** ・他の仮設住宅との関わりであるが、柴原、三春の里、熊耳ではお互いの会長を呼び合ったりするが、これらは個人的な関係である
	2015 年度	・会計が変わった。去年までの会計が副会長となり、坂本会長のときに副会長だった人が会計となった	・回覧板に意見記入欄を設けており、結構な人が書いてくれている。そこで意見があったら役員が集まって、その都度相談している ・自治会独自でヘルプが必要なときにおだがいさまセンターに頼んでそこから来てもらうようにしている	・平沢の公営住宅への入居であるが、ほとんどが希望している ・部屋内のカビがすごい。特にものが置いてある裏側がひどい **・名目だけは自治会を設置しておいた方がよい**
平沢	2012 年度 まで	・会長1名、副会長1名、会計1名、会計監査2名、役員1名（2011年度） ・会長1名、副会長1名、会計1名、役員1名、会計監査1名（2012年度）	・逐次開催の役員会 ・年1回の周囲のクリーン作戦、同じ行政区のクリーン作戦 ・8月に草刈り ・支援物資分配 ・味の素による料理教室、宗教団体による映画鑑賞会など	**・クレーマーが多い** ・支援物資配分でクレームをいう人が多かったので、物資受け入れをしないことにした
	2013 ～ 2014 年度	・会長1名、副会長兼会計1名、役員1名、会計監査1名	・さくらスポーツクラブによる毎週火曜の元気up教室 ・健康サロンを月2回、カラオケが月1回など ・三春の地元の人との交流は春の運動会、秋の文化祭、冬の餅つき ・毎年新年会を開いているが、2012年40世帯、13年25世帯143年目20世帯と減ってきている ・事業計画として立ててはなかったが、2013年秋にバーベキューを行った	・2013年春から役員数を減らした。その理由は**生活が落ち着いてきたので、自治会が前面に出て行わなくてもよいと考えたため** ・空いている部屋が多くなったので、最近では一部屋を倉庫代わりなどにも使えるように役場から許可をもらった **・仮設での生活に慣れてきて、落ち着いてきたと思う** **・3年を過ぎて、いくつかの人たちの好みの傾向がわかるようになってきた**
	2015 年度	↑	・集会所にカラオケがあるので、そこでみんなで歌ったり、テレビを寝ころんで見ている	・ここの仮設からはほとんど平沢住宅へ移るようだ
柴原 萩久保	2012 年度 まで	・会長、副会長各1名の計2名体制（当初は7名体制）	・折紙教室、3B体操、料理教室など ・三春町主催のゴミ拾いや行事に参加 ・花見、足湯	・毎月第三土曜の18時から懇親会を開催する予定 ・三春町とのつきあいが多い
	2013 ～ 2014 年度	↑	・活動や行事は婦人部（2013年4月立ち上げ）が中心となって実施 ・花見を行い、三春町、派出所の人、仮設内の回覧を通じて呼びかけを行い、35名ほどが参加 ・クリスマス＆忘年会、夏は熊耳仮設の声かけにより盆踊りを開催。ここからは7～8名参加	・2013年春に始めた「懇談会」はやめた。理由は2～3名しか来なく、集まりが悪かったから。4月と5月の2回だけだった **・みんなのことを一人ひとり、正確を含めてわかるようになってきた** ・転居していった人たちとの交流はある
	2015 年度	・会計の人が三春で新築したので引っ越したため、会長が会計と兼務した他は留任した	・柴原仮設独自のものとして、仮設住宅の親睦のために自分が音頭をとって宴会をやっている ・梅雨明けに暑気払いをやりたい	・この仮設では3分の2が公営住宅への入居を希望している

表 6　2012 年度から 15 年度までの仮設住宅自治会の動向(続き)

自治会名	時期	①組織	②活動・行事	③問題点等その他
安達太良	2012年度まで	・会長、副会長、会計が各1名、監査が2名、班長が7名、相談役が3名 ・会長副会長は50代、班長は50～60代で相談役が70代	・独居高齢者対策の「黄色い旗」 ・草刈りや除雪 ・毎週火曜日にサロン、月水にパッチワーク ・毎朝集会所前でたき火を囲んでの情報交換 ・田植え、稲刈り、もちつき等、クリーン作戦、演奏会、夏祭り	**・公営住宅への移住問題** ・除雪作業などを仮設で請け負うための「さくら建設」を設立
	2013～2014年度	・「協力者」としてA棟4名、B棟3名(会長1名含む)、E棟2名、F棟3名(副会長1名含む)の12名を設けて、役員会にも出席してもらうことにした	・役員会は2013年から2ヶ月に1回、行事の一ヶ月前に開催し、イベント日程や役割分担などを議論 ・2013年、3年に1回開催される大玉村運動会に仮設から参加 ・町の敬老会には参加、社教サロンの高齢者の集い ・パッチワーク、グランドゴルフ	**・80～90代のひとり暮らしが多く、75歳以上は80人いる。この人たちの対応をどうするか**、(問題発生などの)早期発見の体制をどうするのかが課題 ・班長でなくても芋煮会や夏祭りに協力してくれる人も多く、そうした人を**「協力者」**とした
	2015年度	・役員は復興住宅に入る人を中心に構成	・役員会はその都度開催することにして、年に4回開催する ・復興住宅のことも あり、今年から7月5日の村のクリーンアップ作戦に参加し、区の住民と一緒に行う	**・復興住宅入居完了後から、大玉村の行事を中心に参加するつもり**
好間	2012年度まで	・会長1名、副会長1名、会計1名、監査2名、班長1名、顧問1名(元会長)	・交通安全パトロール「とみおか隊」(不定期で出来るときに行う) ・ゴミ出し管理は役員の仕事 ・年中行事中心 ・イベントも交流を中心に実施、毎回50名位が参加。若い人はほとんど来ないため、高齢者中心で行事を運営 ・支援団体絡みは少ない ・イベント時には好間地区との交流はあり	・若い世帯が多く、独居老人は少
	2013～2014年度	↑	・役員会は第三土曜17時からだったのを、2014年度から平日18時半からに変更し、出来る範囲で月1回行うことにした ・草刈り、消毒 ・芋煮会、新年会、餅つき大会 ・好間地区に年2回の草むしりに参加 ・平七夕祭り、好間地区との交流会	・仲のよいもの同士でいくつかのグループになる ・上好間下組や好間支所や駐在所へ会長交代の挨拶へいった ・総会には30名ほどが参加。**自治会を立ち上げた頃の総会は参加者からの質問が多かったのだが、最近は質問も出なくなりこちらから質問をするようになった** ・会費を半期3,000円で2回徴収していたが、**繰越金が多いと総会でもめる**ことになるので、2014年度から年2,000円に減額した。外部の人との共同でイベントをやることが多くなり、資金を負担してくれるからである
	2015年度	・留任は会長と監査のみ ・班長をなくした	・新年会はこの自治会の一大イベント ・コミュニケーションを取るために大した議題がなくても役員会を開くことにした	**・転居していった何人かが自治会活動にかなり力になってくれていたので、自治会の力が低下する懸念がある**
泉玉露	2012年度まで	・会長1名、副会長1名、会計1名、事務局1名、監査2名、班長7名(棟ごとにおき、小さいところは1名、大きいところだと2名)、防犯・夜警係が3名	・年1回の総会 ・休日実施の仮設周辺の清掃活動 ・逐次開催の役員会、役員らによる夜警 ・正月にもちつき開催。ボランティアや寄付が集まり、100人ほど参加 ・子どもを対象とした「夏休み教室」 ・ボランティアや社協といった支援団体絡みが多い ・居住者以外の参加率高	**・交流が出来てきたので全戸配布ではなく回覧板にした** ・総会はあるが役員会でほぼ決定 ・比較的子どもが多い ・畑を借りている ・クラブ活動がある
	2013～2014年度	・2014年度は夜警係の1名が欠員。班長もこの数日前にやっと決まったくらい	・役員会はその都度やることになっていたが、定例会を今月から第三水曜日の午前中に開くことにした ・ラジオ体操には30名ほど参加。月1回のクリーン作戦 ・イベント時に女性の力が強く発揮され、ボランティア頼みではない ・花見、七夕、芋煮会、クリスマス会、餅つき ・泉玉露区との関わりで、夏は草刈りや盆踊り、秋には泉の祭りに一緒に声をかけてやっている	**・規模が大きすぎで、まとめようとしてもお茶会など40～50戸単位で動いてしまう。まとめようとするのが無理なのだろう** ・高齢者の安否確認を目的とした「黄色い旗」は2014年になって、ようやくほぼ全員がやってくれるようになった ・他の仮設とのやりとりはほとんどない ・泉玉露交流サロンには行き来しているが、連携はとっていない
	2015年度	・会長、副会長は選出せず、班長10人による合議制をとることになった	・10名の班長による役割分担を決めた。合議制にしたねらいであるが、数年後の自立に向けて各々を考えてやってもらうためである。数名に権限が集中しないようにしないと、もたれ合いになってしまうおそれがあるから	**・初めのうちは様子がわからずみんなよく出てきたが、周りが見え始めてくると小さくまとまって出かけるようになり、また仮設外に家を求める(購入する)人も出てきた**。こうした傾向が強くなり、だんだん(参加する)人が少なくなってきて、必然的に役員をやる人も少なくなってきた
下高久	2012年度まで	2013年3月に自治会設立		
	2013～2014年度	・会長・副会長・会計が各1名。監査が2名。理事が3名。班長が6名A-C棟につき2名ずつ ・副会長と理事は2014年度から1名ずつ増やした	・役員会は第一金曜日に行っていたが、集まりが悪いので2013年12月から第一水曜に変更 ・ラジオ体操は毎朝8時45分から。最大で60名ほどが参加 ・毎週金曜のカラオケ、第2第4火曜の折り紙教室 ・火災などの防災対策は実施済 ・毎週金曜14時～16時のカラオケは集会所で行っている。最初は10数名来ていたのだが、今は5名くらい ・4月12日にイベントを開催、夏祭り、芋煮会 ・市のクリーン作戦に参加	・下高久地区とは交流があり。区長とも電話で相談することあり ・養老院との三者交流会も継続 **・仮の住まいで「すぐに出る」のではなく、「ここにしばらく住むんだ」という気持ちで考えていく方向**
	2015年度	・役員改選で会長1、副会長1、庶務会計2、理事3、班長6	・変わったところとして、月1回役場との懇談会である。議題はあらかじめ決めずに自由参加、自由発言を基本にしている	・今後については新たにやることを考えていない。行事の内容を変えようかと思っている。夏祭りを納涼親睦会という形にして、**支援団体の協力も得て進める**

2.4 公営住宅への集団移住における課題

(1) 自治会同士の連携とそのパイプ役を生み出すことが課題―他地区の事例から―

仮設住宅から災害公営住宅への移転はそれまでに形成されていた関係（いわゆる「コミュニティ」）が一度リセットされることに他ならない。それを避けるための方策が大玉村安達太良仮設での取組だったのだが、一般的にはそのようなことになっていない。本項では他の事例を紹介し、どの部分に課題が生じているのかを確認する。

①「仮設住宅集約に課題　重なる転居「また一から」」（『毎日新聞』20150310）

集約理由は 1)仮設用地を地権者に返還する必要がある、2)空室増加に伴うコミュニティ機能低下や防犯上の問題が懸念される、となっている。女川町は「入居者減でコミュニティが希薄になり、閉じこもりや健康悪化が懸念される」として集約方針を決め、実施時期や規模を検討中。「仮設から仮設へ」の転居で、望むようなコミュニティが育まれる保証はない。「次の仮設に移る人が新しい環境に早く慣れるか心配だ。仮設に取り残され、たらい回しにされていると感じさせないよう市の対応が必要だ」（自治会長を務める大和田泰佑さん）。石巻市では集約の検討は進んでいないが、仮設住宅の自治会でつくる「石巻仮設住宅自治連合推進会」が、仮設間の転居が避けられないと見越して、小規模団地同士でカラオケ大会を開いたり、花見や温泉旅行を企画したりしている。「将来、別の仮設に移った時に知り合いがいれば、溶け込みやすい」（内海徹事務局長）。

②「東日本大震災４年　災害公営住宅への転居　新たな課題」（NHK　20150312）

陸前高田市の例：仮設住宅では、阪神・淡路大震災で孤独死が相次いだ教訓から、社会福祉協議会の「生活支援相談員」などが各世帯を訪問するなどして、安否確認を実施している。しかし、災害公営住宅に入居すると「避難生活が終わった」と見なされ、これまで通りの支援は受けられない。災害公営住宅に支援を広げようとしても、支えきれない被災地の現実もある。市社会福祉協議会は、「見守り」が必要だと判断した人たちを継続して訪問する。

③「パイプ役がいるかどうかが課題」（下神白団地自治会役員：元仮設自治会長コメント）

昔の部落ではガキ大将→子供会長→・・・という流れがわかるのだが、ここはバラバラである。連絡員は性質が違うし、責任者ではない。あくまでも（自分は）パイプ役である。支援団体が役場に自治会設立とその補助をお願いしているようだが、「公営団地は自立のための住宅なので支援（補助金拠出）は出来ない」と言われた。公営団地全体としての自治会設立は難しく、町単位になるのではないか。管理人としてではなく自治会として、補助金ではなく自分らで会費を出して代表を出すかたちになるべきではないか。

⑵　公営住宅集団移住への期待は「住宅の情報提供」―アンケート調査から―

仮設→公営住宅への入居についての事例を確認したが、本項ではアンケート調査から見ていくことにする。公営住宅への入居者 74 名の考える四地区で共通の期待として（表 7）、「住宅の設備・家賃に関する情報提供」（43.2%）、「医療・福祉施設の移動に関する問題解消」（33.8%）、「住宅の工事進捗に関する情報提供」（32.4%）、「入居に関する相談会の開催」（31.1%）等である。

地区別で見ると[5]、郡山では「医療・福祉施設の移動に関する問題解消」（62.5%）、「周辺住民との交流・懇親」「住宅周辺の公共交通機関整備の情報提供」（50.0%）が多い。三春地区はほぼ全体と同じ傾向であり、少ないのが「住宅周辺の医療・福祉施設整備の情報提供」（5.6%）である。大玉も三春と同様に全体平均に近いがとりわけ少ないのが「入居に関する相談会の開催」（13.6%）等であり、先の横堀平団地建設による効果がこうした部分にも現れているといえよう。いわき地区については「住宅周辺の医療・福祉施設整備の情報提供」（46.2%）、「住宅周辺の商業施設整備の情報提供」（30.8%）が多い。

表 7　地区別でみた公営住宅入居時の期待

	調査数	住宅の設備・家賃に関する情報提供	医療・福祉施設の移動に関する問題解消	住宅の工事進捗に関する情報提供	入居に関する相談会の開催	高齢者向けの見守り	買い物の移動に関する問題解消	住宅周辺の医療・福祉施設整備の情報提供	入居希望・予定者による交流・懇親イベント開催	住宅周辺の公共交通機関整備の情報提供	入居希望・予定者による自治会の結成
合　計	74	43.2	33.8	32.4	31.1	28.4	28.4	27.0	27.0	21.6	21.6
郡山	8	50.0	↑ 62.5	37.5	50.0	37.5	37.5	∴ 50.0	25.0	↑ 50.0	25.0
三春	18	55.6	33.3	38.9	27.8	27.8	33.3	▽ 5.6	22.2	－	16.7
大玉	22	36.4	∵ 18.2	22.7	↓ 13.6	18.2	18.2	∵ 13.6	27.3	13.6	18.2
いわき	26	38.5	38.5	34.6	42.3	34.6	30.8	△ 46.2	30.8	∴ 34.6	26.9

	調査数	住宅周辺の放射線量の情報提供	仮設住宅にあった人づきあいの維持	住宅周辺の商業施設整備の情報提供	住宅内の交流・懇親スペースの充実	周辺（地元）住民との交流・懇親	住宅周辺住民との交流・懇親イベントの開催	住宅内の交流・懇親サークルの結成	町や外部団体による生活支援	その他移動に関する問題解消	住宅外の交流・懇親サークルの結成
合　計	74	18.9	18.9	16.2	16.2	16.2	14.9	10.8	8.1	6.8	4.1
郡山	8	∴ 37.5	∴ 37.5	∴ 37.5	25.0	▲ 50.0	12.5	∴ 25.0	12.5	12.5	12.5
三春	18	16.7	22.2	－	11.1	11.1	16.7	5.6	－	5.6	－
大玉	22	13.6	22.7	∵ 4.5	9.1	9.1	∵ 4.5	0.0	9.1	4.5	0.0
いわき	26	19.2	∵ 7.7	△ 30.8	23.1	15.4	23.1	∴ 19.2	11.5	7.7	7.7

⑶　新旧自治会の接続と町・村・区会との連携が必要―会長コメントから―

①　郡山地区、いわき地区

これらの地区では主に集合型の公営住宅への移住となる。この際、入居者はほぼシャッフルされる。そこでの課題は集合住宅での住まい方を教える必要といえる。具体的には以下の通りである。

交流がない

「公営住宅に移った友達に聞いてみると、隣近所の交流がなく寂しいとのこと」（緑ヶ丘東七丁目）、「入った人たちから「閉鎖的な社会環境である」と聞いて、「（公営住宅に）移りたくない」という人が増えている。自分も行ってみたが、孤立、独房というイメージ」（富田町若宮前）、「ドアを閉めてしまうとわからなくなり、安否確認も難しくなるからである。集合住宅でのつきあい方がわからない」（泉玉露）

転居者へのフォロー

「公営住宅へ引っ越した（元気な）人がこの仮設に話しに来ることもある」（泉玉露）

家財道具を揃える必要性

「公営住宅に入居するときにある程度の出費（家財道具をそろえるのに）が必要で大体 80 万くらい」（富田町若宮前）

② 大玉地区

安達太良仮設では時系列的に次のように考えていた。移行期：仮設自治会（役員などを公営住宅転居予定者へシフト）、解体完了以降：仮設自治会がもととなる公営住宅自治会を設立。上記移行を円滑にするために「村の行事に参画」「関係機関との協議」を進めている。

③ 三春地区

各仮設自治会役員は以下のように考えているようである。

1) 入居に向けた備え

・自治会設立／コミュニティ構築の必要性

「町としては自治会をつくってもらいたいようだ」（三春の里）、「公営住宅への転居にあたってはまた最初からコミュニティをつくらなければならないことと、頭に立ってやる人が大変だと思う」（平沢）、「仮設＝班単位でやらないとまとまりがつかないだろう」（柴原萩久保）

・入居場所の調整

「入居場所が仮設毎になっておらず、バラバラなので何とか調整したい」（平沢）

・設備器具の確保

「暖房器具が欲しい人は応募してもらっておくようにとは言っている」（もみじ山）

・情報提供

「自分がわかっている範囲のことは住民に伝えている」（もみじ山）

2) 関係機関への期待・要望

・進捗状況の情報提供

「進捗状況などの情報把握をしっかりして、わかることを早めに流す」（三春の里）

・協議会主導による仮設集約・再編

「復興住宅の問題でも協議会から申し入れると強いはずである。個人だと動かないが、自治会だと動く」（熊耳）

・一体となって集約・再編に取り組む

「入る人も覚悟しているのだから、役場も統一がとれる方向でやってもらわねばならないと思う」（柴原萩久保）

表 8　自治会長からみた公営住宅集約時の課題

自治会名	①入居の動向	②公営住宅の課題
緑ヶ丘東七丁目	・公営住宅は給料もらっている人は入らない。給料もらっている人にとって、家賃に月7万を払うくらいだったら家を建ててしまう	・公営住宅に移った友達に聞いてみると、隣近所の交流がなく寂しいとのこと ・町にも心のケアをしてほしいと思っている
富田町若宮前	・公営住宅に入居するときにある程度の出費（家財道具をそろえるのに）が必要で大体80万くらい	・入った人たちから「閉鎖的な社会環境である」と聞いて、「（公営住宅に）移りたくない」という人が増えている。自分も行ってみたが、孤立、独房というイメージ ・公営住宅の人はそれなりに（家賃などで）補償されるが、アパートなどではダメである。被災者間の格差が生じてしまう恐れがある
泉玉露	・公営住宅へ引っ越した（元気な）人がこの仮設に話しに来ることもある	・復興公営住宅は元気な人にとっては広くていいのではないか。一人暮らしの人は嫌がっている。ドアを閉めてしまうとわからなくなり、安否確認も難しくなるからである。集合住宅でのつきあい方がわからない。
安達太良	・復興住宅と仮設住宅の自治会を2つ並立させることになると、格差が出来てしまうために1つのままにする ・仮設住宅の解体完了の時点で復興住宅の人たちだけで運営してほしい	・復興住宅入居完了後から、**大玉村の行事を中心に参加**するつもり ・**自治会役員の負担が増えるかもしれない**。富岡町だけでなく大玉村の事業に関与することに賛同するかがわからないから ・村の行政区の一部となるかなどは、大玉村と富岡町の行政サイドと一緒に協議中
三春の里	・**町としては自治会をつくってもらいたいようだ**。そうなると、連絡員、社協、おだがいさまセンターがいらなくなり、自治会が窓口になってやるべきとなる	・これからは復興住宅が出来るのだからやり方を変えないといけない ・**進捗状況などの情報把握をしっかりして、わかることを早めに流す**。そうしないと不安が出てしまって、迷っている人は入らなくなるかもしれない
熊耳		・**復興住宅の問題でも協議会から申し入れると強いはず**である。個人だと動かないが、自治会だと動く
もみじ山	・仮設単位でまとまって入居する話はしていない。住民の中での（具体的な）話はまだない ・「暖房器具が欲しい人は応募してもらっておくように」とは言っている ・**自分がわかる範囲のことは住民に伝えている**	
平沢	・**入居場所が仮設毎になっておらず、バラバラなので何とか調整したい**と考えている	
柴原萩久保	・**公営住宅への転居にあたってはまた最初からコミュニティをつくらなければならないことと、頭に立ってやる人が大変**だと思う ・平沢の公営住宅を例に挙げれば、富岡と双葉・大熊が入居したとして、これらがつくるであろうコミュニティを町がどう考えているかわからない。仮設で一緒になってやっていた人ばかりでは厳しいのでは。**仮設＝班単位でやらないとまとまりがつかないだろう**	・入る人も覚悟しているのだから、**役場も統一がとれる方向でやってもらわねばならない**と思う

2.5　今後の仮設自治会運営に向けた課題

最後に今後の仮設自治会運営に向けた課題をこれまでの調査結果から論じることとする。今後も仮設住宅に留まる予定の住民が仮設自治会に期待するのは、「賠償等の交渉」「転居に関する生活相談」。仮設住宅から公営住宅へ転居を予定している人は「医療福祉施設の問題解消・情報提供」を望んでいることである。

一方の自治会役員にとっては仮設自治会について、内外の支援と入居率が低下するなかでの交流維持を検討している。また、公営住宅への転居については（郡山やいわきで多く見られる）集合住宅での住まい方を教える必要性を認識している。

これらの結果をふまえて、筆者が考える今後の展開（案）としては以下の通りである。

1)　入居継続者

「決まっていない人」については、より高齢者向けの活動・行事への再検討・再編成が必要といえ、その参加者にとって体力的に負担が少ないものへシフトが必要と考える。具体的には懇親や健康維持を目的とした活動・行事の開催である。次に賠償、転居等に関する情報提供や生活相談である。こうした情報を提供することで「次のステップ」へ促すことにつながると考えるからである。

「転居先が決まっている人」であるが、転居先の町内会・自治会加入など「その先」の住民との交流を促す方法の伝授である。既に転居した人たちとの交流などを行い、事前の「備え」（住まい方など）を促すことで、転居先での孤立化を避けるためである。

2)　公営住宅転居予定者

まずは町内会・自治会加入など転居先住民との交流を促すことである。必要に応じて外部支援団体を巻き込みつつ、現入居者と転居者が主体となって行うことが重要である。これも事前の「備え」（住まい方など）を促すことがねらいとなっている。

また、仮設住宅出身で公営住宅転居者との交流を促すことも大切である。特に集合住宅タイプの公営住宅に転居した人たちが仮設住宅の活動・行事などに参加することがあることもあり、こうした人たちとの交流を積極的に行うことが必要である。

以上の議論は2015年冬の段階のものである。本章をとりまとめている2017年春時点では、この春に一部地域での避難指示解除が予定されることもあり、環境が大きく変わっているものの、少なくともここ数年は上記の対応は必要であると考える。

注

1)　本章は2015 年冬に各仮設住宅自治会長へ配布した『富岡町　○○仮設住宅動向　まとめ』に加筆修正したものである。
2)　町役場提供資料と仮設住宅自治会長らへの聞き取りから筆者作成。
3)　町役場提供資料から筆者作成。
4)　分析は集計ソフト Assum for windows で行っている。全体との有意差を示す記号を▲▼：1%、△▽：5%、↑↓：10%、∴∵：20%　とする。
5)　郡山と三春はいずれも 20s であるために参考値であることをお断りしたい。